

都道府県別賞一等

日常生活で感じる生命保険の大切さ

広島県 広島市立広島中等教育学校 二年生

山口 希海

生命保険という言葉は聞いたことがありますが、どういうものなのか、なぜそのようなものがあるのか知りませんでした。しかし、今回作文を書くために調べたり、話を聞いたりしたことで、生命保険の大切さを知ることができました。そもそも生命保険とはどんなもので、何のためにあるのかわからなかったのですが、インターネットで調べてみました。すると、「死亡、病気やケガ、介護などの生活上のリスクに備えるための保険」だとわかりました。しかし、「保険」という言葉自体が私にとって無縁で、どんなものか知った後でも、あまり必要性を感じませんでした。

そこで、もし生命保険に加入していないときに病気になったらどうなるのか考えてみました。病気になって入院すれば、お金がかかります。家族などがお金がある場合は、治療費や入院費が払えることもあると思います。しかし、家族がいなかったり、一人暮らしをしていたりして、自分でお金を稼がなければいけない人は、入院すると働けなくなりお金を払うことができなくなるかもしれないと思いました。また、家族がいても高い費用がかかればお金が足りないかもしれませんし、預貯金などをしていても、始めたばかりであればたくさんのお金はたまっていないと思いました。

生命保険に加入していなければ、一度でも大きな病気やケガをしてしまうと、人によっては生計を立てることが難しくなると思いました。生命保険に入っていれば、もしも何かあればお金を受け取ることができます。また、加入したばかりでも、受け取れるお金が決まっているので、いつでも安心して過ごすことができます。

生命保険が安心感を与えてくれることは理解することができました。しかし、私が生命保険に加入しているのか知らなかったのも、父と母に聞いてみました。すると、家族四人全員が生命保険に入っていると教えてくれました。さらに兄と母は生命保険を利用したことがあると言っていたので、兄が利用したときのことについて詳しく話を聞きました。

兄は去年の冬、盲腸になりました。父の仕事場が遠かったことや、兄が近くの病院で診てもらえなかったこともあって、移動するためのお金がとてもかかりました。しかし、生命保険に入っていたおかげで、入院代や交通費を払うのに使うことができました。

第63回中学生作文コンクール

私はこの話を聞いて驚きました。兄が盲腸になったとき、生命保険を利用していたとは思っていなかったからです。このような突然の出来事があったときでも、生活したり、日頃から安心して過ごしたりするために生命保険はあると思います。

生命保険が家族の役に立っていたことを知って、私にも無関係ではないと思いました。私が大人になっても自分や周りの人のために、生命保険に入り続けようと思いました。

「今まで健康だったからこれからは病気にならない」、「気を付けているから絶対にケガをしない」ということはありません。いつでも私たちは、生活上のリスクと共に過ごしていると思います。いつ来るかわからない「もしも」のときのために、生命保険に加入し、備えるべきだと思いました。